

2024 年度第 3 回支部集会【中国支部】

主催：公益社団法人 日本語教育学会

後援：岡山大学大学院社会文化科学研究科・岡山県・岡山市

日時：2024 年 10 月 26 日(土)10:00～16:50（受付開始 9:30）[本催しのポスターはこちら](#)

会場：岡山大学 津島キャンパス 文化科学系総合研究棟2F

（〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1番1号）

交通アクセス：岡山駅から岡電バス「岡山大学・岡山理科大学」行に乗車，「岡大西門」で下車。

<https://www.let.okayama-u.ac.jp/aboutus/access/> ※公共交通機関を利用してご来場ください。

参加費：500 円（マイページより事前参加登録時に支払い） 定員：70 名

対象：日本語教育に関心のある方などなたでもご参加いただけます。

申込締切：2024 年 10 月 20 日(日)23:59

（定員に達した場合は、締切日以前に締め切ります。会場に余裕があれば当日参加も受け付けます）

申込方法：本イベントへのご参加には事前登録が必要です。日本語教育学会会員以外の方（非会員）もお気軽にご参加ください。[日本語教育学会マイページ](#) から事前参加登録をお願いします。

問合せ先：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

E-mail: shibu@nkg.or.jp TEL:03-3262-4291(平日 9～18 時のみ)

◆支部集会日程◆

9:30	受付開始	【2階 リフレッシュコーナー付近】
10:00-11:30	開会 ポスター発表(1) 交流ひろば(1) (3 件)	【2階 演習室202】 【2階 演習室202, 演習室203】
11:40-13:10	ポスター発表(2) 交流ひろば(2) (3 件)	【2階 演習室202】 【2階 演習室202, 演習室203】
13:10-14:00	休憩	
14:00-14:10	開催校挨拶	【2階 共同研究室208】
14:10-14:40	口頭発表(1件)	【2階 共同研究室208】
14:50-16:40	地域企画パネルディスカッション	【2階 共同研究室208】
16:40-16:50	閉会	【2階 共同研究室208】

開会

ポスター発表(1)

【10:00-11:30／2階 演習室202】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.5～，詳細は予稿集原稿をご覧ください。

①「日本語のテストとCEFR／日本語教育の参照枠との関係づけに関する疑問」【演習室202前方】

今井新悟(一般社団法人日本語教育支援協会)

交流ひろば(1)

【10:00-11:30/2階 202演習室, 203演習室】

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。「交流ひろば」への出展は、学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

①「日本語教師の管理運營業務リストの作成と現場での活用」 【演習室202後方】

中川健司(横浜国立大学)・平山允子(日本学生支援機構)・安中浩美(アン・ランゲージ・スクール成増校)

日本語教師は、所属機関で、授業実践以外にも学生対応や時間割作成等の様々な管理運營業務を担っています。本出展では、出展者が行った管理運營業務リスト作成の試みと、日本語学校の業務改善のために業務リストを活用した事例について報告したうえで、それぞれの現場での管理運營業務の実状や改善のためにどのようなことができるのかについて意見交換を行いたいと考えています。

②「ボランティア日本語教室「オンラインにほんごルーム」のあゆみ 【演習室203前方】

—オンラインによるボランティアクラスの活動事例と課題—

小宮さおり(岡山大学)・尾崎ひろこ・中島未智

「オンラインにほんごルーム」は、留学生およびその家族を対象としたオンラインによるボランティア教室です。コーディネーターが講師と学習者をマッチングし、双方の都合の良い曜日・時間に、毎週クラスを実施しています。オンラインクラスの活動事例をご紹介します。運営や授業に関する課題について皆さんと意見交換したいと考えています。

③「岡山県の未来を拓く日本語教育」 【演習室203後方】

山根(吉長)智恵(山陽学園短期大学)・浦上典江(中国学園短期大学)

岡山日本語センターは法人設立前から日本語教授のボランティア活動を行っており、2024年2月には創立40周年記念大会も行いました。山陽学園大学も日本語教授ボランティアに関わってきました。岡山で支部集會が開催されるので、これらの活動や発表者が関係する岡山市の活動、そして岡山県の日本語教育の未来にも触れた発表を行います。

ポスター発表(2)

【11:40-13:10/2階 202演習室】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.5～、詳細は予稿集原稿をご覧ください。

②「オンラインによるボランティア日本語教室における参加者間のインターアクションの分析

—地域型日本語教育の実現に向けて—

【演習室202前方】

末繁美和(岡山大学)

交流ひろば(2)

【11:40-13:10/2階 202演習室, 203演習室】

④「日本語教師と学習支援者が協働する地域日本語教室の試み 【演習室202後方】

～兵庫県でのモデル事業を通して～

村上由記((公財)兵庫県国際交流協会)・篠原典子((公財)兵庫県国際交流協会)

兵庫県国際交流協会では令和元年から地域日本語教育の体制づくりを進める中で、モデル事業を行い、日本語教師と学習支援者が互いに特性を発揮して協働する教室活動に取り組みました。県内7地域で試行錯誤した実践について報告し、地域に日本語教師が加わることの意義、現場で生じる摩擦などの問題について意見交換を行いたいと思います。

⑤「日本語多読の授業における多読を促進する仕掛けづくりと声かけ」 **【演習室203前方】**

長野真澄(岡山大学)・秋田節子(岡山大学)・太田朗子(岡山大学)

私たちは大学で初中級及び中上級の日本語学習者を対象とした多読授業を行っています。出展では、私たちが日本語多読の授業で学習者に多読を促すために行っている仕掛けづくりや学習者への声かけについて紹介しつつ、より良い多読の実践を目指して、皆様と情報共有と意見交換ができればと考えています。多読について幅広くお話しできると嬉しいです。

⑥「ヒューマンライブラリーが紡ぐ学びの場

—研修参加者と主催者の振り返りから—

【演習室203後方】

秋田美帆(岡山大学グローバル人材育成院)・宮崎聡子(関西学院大学日本語教育センター)

「人生を貸し出す図書館」とも言われる対話イベント「ヒューマンライブラリー」をご存知でしょうか。私たちは、「ヒューマンライブラリー」を定期的に開催しています。当日はヒューマンライブラリーの実例や、開催者研修について紹介します。「ヒューマンライブラリー」そのものに興味のある方だけでなく、多様性に関わられた場づくりについて考えたいという方、ぜひお越しください。

休憩

【13:10-14:00】

開催校挨拶

【14:00-14:10／2階 共同研究室208】

口頭発表

【14:10-14:40／2階 共同研究室208】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.5～、詳細は予稿集原稿をご覧ください。

①「中国の大学における日本語専攻者への授業外の日本語学習支援

—書く力の向上を目的としたライティングサポート—

孫芳(東北大学)

地域企画パネルディスカッション

【14:50-16:40／2階 共同研究室208】

「岡山市における地域日本語教育のさまざまな取り組み

—外国人市民とともに創る活力ある地域づくりを目指して—

岡山市は2023年度より文化庁(現:文部科学省)「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」に採択され、「岡山市地域日本語教育推進のための総合調整会議」を設置し、地域日本語教育の体制整備を進めています。岡山市では個人・団体による地域日本語教育活動も多く行われていますが、様々な課題を抱えており、日本語教室空白地域解消もその一つです。一方、外国人市民自らが代表を務める団体や、地域に増える外国につながる親子との交流、技能実習生への日本語学習支援を行う団体など、新しい動きもあります。岡山市における地域日本語教育のさまざまな取り組みをご紹介します。「外国人市民とともに創る活力ある地域づくり」について、皆さんと意見交換したいと思います。

原明子(岡山市地域日本語教育総括コーディネーター)

片山浩子(居場所づくりネットワーク(INE)会長・学校法人アジアの風岡山外語学院理事長)

謝苾怡(週末エウレカ代表・岡山大学大学院生)

ホアン・ゴック・ビクチャン(Share & Chill !!!代表・岡山大学大学院生)

中東靖恵(岡山市地域日本語教育推進のための総合調整会議委員長・岡山大学准教授)

閉会

【16:40-16:50／2階 共同研究室208】

〔2024年度第3回支部集会（中国支部）ポスター発表①〕

日本語のテストとCEFR／日本語教育の参照枠との関係づけに関する疑問

今井新悟

現在、多くの日本語能力試験が存在し、在留資格取得や日本語学校の修了に必要な試験の一覧が法務省のHPに掲載されている。これらの試験は「日本語教育の参照枠」に関連付けられているが、そのプロセスの説明は不足している。各試験のサイトには「本試験の〇点がA2レベルに相当する」というような記述があるが、そのプロセスは明確に示されていない。この関連付けプロセスを調査し、欧州の試験におけるCEFRとの関連付けの方法と比較した結果、日本語試験の関連付けに関する情報が極めて少なく、不透明であることが明らかになった。この不透明さは試験の信頼性に疑問を生じさせる。本調査の限界として、このような情報の少なさが、情報公開の制約によるのか、妥当なプロセスが欠如しているのかを区別できない点があるが、テストの実施機関には最低限の説明を提供することや第三者による検証を提言し、信頼できる試験を整えることを目指したい。

（今井 — 一般社団法人日本語教育支援協会）

〔2024年度第3回支部集会（中国支部）ポスター発表②〕

オンラインによるボランティア日本語教室における参加者間のインターアクションの分析
—地域型日本語教育の実現に向けて—

末繁美和

本研究では、地域型のモデル構築に向け、地域型の特徴を有する教室内での支援者および参加者の発話や教授行動の傾向を明らかにすべく、外国語相互作用分析システム（以下、Fシステム）を用い、オンラインによるボランティア教室におけるインターアクションの分析を行った。分析の結果、（1）支援者の平均発話数が学習者より多いこと、（2）支援者の発話における間接的行動の割合が直接的行動よりもやや高いことが示された。「おしゃべり型」では、学習者が伝えたいことを言語化していくプロセスの中で、間接的行動の下位分類の「質問」「学習者の意図の利用」「学習者の回答の繰り返し」等を支援者が積極的に使用し支援していることが分かった。一方、学習者同士のインターアクションの欠如、媒介語使用率の高さが観察され、オンライン特有の制約が影響している可能性があるため、日本語での参加者同士のやり取りを促す工夫が必要であると言える。

（末繁 — 岡山大学）

〔2024年度第3回支部集会（中国支部）口頭発表①〕

中国の大学における日本語専攻者への授業外の日本語学習支援
—書く力の向上を目的としたライティングサポート—

孫芳

本稿では、外国語としての日本語における作文練習の授業外活動として、モデル文の音読と視写が日本語への気づきを引き起こすという仮説を立て、それらの活動が学生の作文能力にどのような効果を及ぼすかを検証した。中国の大学における日本語専攻の学生を音読群（n=25）、視写群（n=25）、そして対照群（n=25）に分け、17週間にわたって音読群と視写群にモデル文を与え、週に一度、音読または視写をしてもらった。課題提出率、アンケートおよびインタビューの結果から、視写と音読は、学習者各自が自分のペースで長く続けることのできる授業外活動の一つであることがわかった一方、作文テストの全体的な得点には、グループ間に統計分析が有意な差が見られず、日本語の文章力向上への影響はないことが示唆された。しかし、作文の形式（書式）においては、視写群の得点は有意に高かったことから、視写を長く続ければ作文形式の学習に効果があることが分かった。

（孫 — 東北大学）